

タイトル『汐製菓会社の新作 35
ビスケット 2』

登場人物

汐（しお）（30代）

汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに奇想天外なお菓子を発案する天才肌。快活で強引だが、周囲の人々を巻き込むカリスマ性がある。

塩田（しおだ）（30代）

汐の秘書。真面目で心配性。汐の発想には毎回振り回されるが、彼の情熱に共感している一面もある。実は無類のお菓子好きで、それが理由でこの会社に就職した。

シナリオ

第一シーン…汐製菓の会議室

(会議室。汐は大きなホワイトボードにいろんなアイデアを書き込んでいるが、どれも消していく。塩田が書類を持って入ってくる)

塩田

「社長、今月の売上報告です。売れ筋の『塩キャラメルクッキー』と『ダブルチョコビスケット』、どちらも予想以上のヒットです。」

汐

「ビスケットか…。」

塩田

「はい、ビスケットはやはり手堅いですね。どの層にも受ける商品ですし。」

汐

「ビスケット、ビスケット…。いや、ビスケット『2』だ！」

塩田

「え？『2』ってどういう意味ですか？新しいバ
ージョン？」

汐

「その通り！だがただの『ビスケット2』じゃな
いぞ。これからの時代を担う、新感覚のビス
ケットを作るんだ。」

塩田

「（不安そうに）新感覚…ですか？」

汐

「そう！その名も…オムライス味ビスケット
だ！」

塩田

「（驚愕）オムライス！？ビスケットで、オムラ
イスの味ですか？それって…ちょっと奇抜すぎ
ませんか？」

汐

「奇抜だからこそ面白いんだよ。甘いだけがビスケットじゃない。甘味と塩味の絶妙なバランスを取れば、まさに世界に通用する新しい菓子が生まれる！」

塩田

「でも…ビスケットとオムライスって、そもそも合うんですか？」

汐

「合う！絶対合う！君も試してみれば分かるさ。」

塩田

「（心の中で）いや、絶対失敗する予感がするんだけど…」

第2シーン：試作品の試食

（汐のデスクの上にはオムライス味ビスケットの試作品が並べられている。色とりどりのビスケットが妙に鮮やかな見た目）

塩田

「すごいカラフルですね……。見た目だけは美味しそう……。」

汐

「さあ、どうぞ！遠慮せずに食べてみてください。」

塩田

「（ためらいながら一つを手取る）えっと……じゃあ、いただきます……一口食べる……うっ……？……」

汐

「どうだ！すごいだろう！」

塩田

「（なんとか表情を取り繕いながら）いや、確

かにオムライスの味がしますけど…ビスケットのサクサク感と、ケチャップの酸味が…何とも言えない衝突感というか…」

汐

「そう、そこがポイントなんだ！甘さと酸味の衝突が、新たな味覚の地平を切り開く！これは革命だよ、塩田君！」

塩田

「（小声で）革命…と言われても…」

汐

「とにかく、この試作品をどんどん改良して、次の段階に進めよう！塩田君、準備は頼んだぞ！」

塩田

「（ため息）本当にこれが世間に受け入れられるんだろうか…」

第3シーン…開発プロセス

（数日後、開発部門で試作品の改良が行われている。塩田が開発チームと話している）

塩田

「すみません、社長が新しいビスケットのアイデアを…。オムライス味のビスケットなんですが。」

開発部員

「えっ？オムライス！？ビスケットで？それって本気ですか？」

塩田

「ええ、本気も本気です。社長は絶対に成功するって信じてますから。」

開発部員

「…わかりました。何とか試してみますが、正直これはかなり挑戦的ですね。」

塩田

「私もそう思います。でも、社長のアイデアは時々大ヒットするんですよ。だから、もしかしたら…。」

開発部員

「まあ、うちの会社では何がヒットするか分かりませんからね。とにかく、試作を進めてみます。」

（試作品の改良が進み、塩田も頻繁にテイスティングに参加する）

塩田

「（試食しながら）あ、前よりはマイルドになっていますね。ケチャップの酸味がちょっと控えめで、卵の味が強調されています。」

開発部員

「はい、少しバランスを取り直してみました。ただ、まだ微妙な部分があるので、もう少し調整します。」

塩田

「お願いします…（小声で）これが成功してくれるといいけど…」

第4シーン：国内発売の準備

（数週間後。汐と塩田がマーケティング会議をしている）

汐

「よし、試作品もいい感じに仕上がったな。次は発売だ！」

塩田

「ですが、社長：オムライス味のビスケットと
いうのは、やはり受け入れられるかどうか心配
です。まずはテスト販売をして、消費者の
反応を見た方が良いのではないでしょう
か？」

汐

「そんな悠長なことを言っているでは世界は変えられない！ 一気に大々的に発売するんだ。」

塩田

「でも、あまりにも冒険しすぎると…失敗するリスクも大きくなりますよ。メディア戦略も慎重にした方が…」

汐

「だからこそ大胆なプロモーションが必要なんだ！メディアやSNSを駆使して、一気に世間を巻き込む。『オムライス味ビスケット』は、ただのビスケットじゃない。新しい時代を象徴する一品なんだ！」

塩田

「（内心）本当にそんなにうまくいくのかしら…」

第5シーン：国内発売開始

（発売日。テレビCMやSNSでのキャンペーンが開始され、街中にオムライス味ビスケットの広告が溢れる）

ナレーション（CM）

「新感覚！オムライス味ビスケット！甘さと酸味が奏でる究極のハーモニー！一度食べたら、もう他のビスケットには戻れない！」

（画面には鮮やかなオムライスとビスケットが映し出され、SNS上でも話題になっている）

SNSユーザー1

「えっ、オムライス味のビスケット？マジでそんなの出るの？」

SNSユーザー2

「これ、逆に食べてみたいかも…」

SNSユーザー③

「オムライス好きとしては挑戦するしかないな。」

塩田

「社長、SNSでは意外と注目されています。」

『面白い』とか『新しい』という反応が多いですけど、まだ味に対しては慎重な意見も…」

汐

「ほら見る！これこそまさに成功の兆しだ！

最初は驚きだが、一度食べればその価値が分かる。さあ、コンビニやスーパーでどんどん展開していきうー」

第9シーン：売上の伸び

（数週間後。オムライス味ビスケットの売上が急速に伸びている。塩田と汐が売上データを確認している）

塩田

「社長、予想以上に売れてます！最初は興味本位で買った人が多いようですが、リピーターも増えてます。」

汐

「そうだろう？人々は新しいものを求めているんだ。甘いだけのビスケットじゃつまらない。これからはオムライス味が定番になるんだよ！」

塩田

「（驚きながら）本当に…信じられません。あの味がこんなに受け入れられるなんて。」

汐

「これで日本市場はクリアだ。次は海外展開だな！」

塩田

「え、海外でも？でも、海外でオムライスって、あまり馴染みがないかもしれませんよ…」

汐

「大丈夫だ！日本食は今、海外でも注目されている。オムライスもその一環として広がっている。これを機にさらに世界に広めるんだ！」

第ㄥシーン：海外展開の準備

（汐と塩田が海外展開の戦略会議をしている。市場調査や現地のマーケティングプランについて議論している）

塩田

「社長、フランスやアメリカでは、オムライスのビスケットが受け入れられるかどうか、現地の消費者の好みをもっと調査する必要がある。特にフランスは食に対するこだわりが強いですし、アメリカは味のインパクトを重視します。」

汐

「確かに市場調査は重要だが、やはり実際に食べてもらうことが一番だ！試食会を開いて、現地の反応を直に見るんだ。」

塩田

「（ため息）わかりました。フランスとアメリカで同時にプロモーションを展開しましょう。ただ、慎重に……」

汐

「慎重にしては時代を切り開けない！大胆にいくぞ！」

第8シーン：フランスでの発表会

（パリの高級ホテルでの発表会。汐と塩田が現地メディアやバイヤーたちを前にしている）

汐

「皆さん、こんにちは！本日は日本から新た

な味覚をお届けします。その名も、オムライス
味ビスケット！」

（会場はざわつく。フランス人たちは困惑した
表情を浮かべる）

汐

「どうぞ、試食してください。これはただのビ
スケットではありません。甘さと塩味、そして
酸味のバランスが生む新しい体験です！」

（フランス人たちが半信半疑でビスケットを口
にする）

フランス人バイヤー

「これは…不思議な味だ。でも、悪くない。」

フランス人バイヤー

「最初は奇妙だけど、後味がクセになるわ。」

塩田

「（驚いて）えっ、意外にも好評…？」

汐

「ほら見ろ！やっぱり新しいものはどこでも受け入れられるんだよ！」

第6シーン：世界的大ヒット

（数ヶ月後、オムライス味ビスケットは世界中で大ヒットしている。SNSやニュースでも話題に）

SNSユーザー（海外）

「日本のビスケット、オムライス味！最初は変だったけど、今はやみつき！」

ニュースキャスター

「オムライス味ビスケット、国内外で大人気！売上は前年度比300%増加！」

塩田

「社長、驚きです！海外でもオムライス味ビスケットが大成功を収めています！」

汐

「よし、これで我々のビスケットは世界を制覇したな！次は…たこ焼き味ビスケットだ！」

塩田

「（絶望の表情で）またですか！？次こそは普通の味にしてくださいよ…！」

エンディング

終わり